

平成 29 年度 国立中央青少年交流の家 教育事業

子ども 防災カトレーニングキャンプ

期日：平成 30 年 2 月 10 日（土）～ 2 月 12 日（月）2 泊 3 日

○目的

防災への備えを学ぶとともに、自分で考え行動する力や他者を思いやる心など子供の生き抜く力を育てる。

○参加者〔小学 4・5・6 年生〕 合計：28 名

沼津市：17 名、御殿場市：9 名、小山町：1 名、
静岡市：1 名



○キャンプの企画立案・運営

本事業は当所で養成したボランティア数名がこれまでの経験や過去の資料から企画を立案し、当日に向けて様々な準備や資料作成等を行った。

キャンプ前日に全スタッフ（ボランティア 11 名、実習生 1 名、学生サポーター 2 名）が集合し、本事業の目的の確認を行うとともに、各プログラム運営時の注意事項の共通理解を図った。

当日は代表となるボランティアを中心に全体進行や各プログラムの運営を担い、ボランティア自らが全てのプログラムを実施した。

○事業の内容

（1）はじめの会・交流ゲーム

初めて出会う仲間と様々なゲームを実施し交流を深めた。



（2）避難行動トレーニング①

実際の震災の写真を見て、災害の実態を知るとともに、写真や絵を使用しての危険予測トレーニングや、決められた条件で災害が発生した時に自らの行動を考える目黒巻（※）を実施し、災害イメージング力の向上を目指した。

（※）東京大学生産技術研究所の目黒公郎教授が考案した災害時に起こり得る様々な状況をブレインストーミングするためのツール。



（3）避難行動トレーニング②

現役看護師であり、ボランティアの杉浦信志さんを講師として、災害時に必要となるダンボールトイレの作成方法及び医療道具が十分でない時に活用できる身の回りの物を使った応急処置を学んだ。



(4) 防災ラリー

施設内 10ヶ所に設置した様々な課題を班で協力しながら解決するラリーに挑戦した。意見が合わず、失敗を繰り返す場面もあったが、話し合いを重ね、見事に課題を解決し、班全員で喜ぶ姿が見られた。



(5) 避難所生活体験

2日目の夕食は 50 人分のアルファ米を試食した。お湯を入れた時や完成時には歓声があがった。味も予想に反して、美味しかったと声があった。

避難所を意識してのプライベート空間作りでは、ダンボールを活用し、それぞれが思考をこらした自分らしい快適な環境を作っていた。



(6) 発表会

3日間で学んだことを保護者の皆様の前で発表した。応急処置やトイレの作成、担架での搬送などの技術面の発表から、活動の中から感じた相手の気持ちを考えて行動するなどの意識的な面まで、自分達の言葉で今回の学びを振り返っていた。



【参加者の感想から】

- もっと詳しい手当での仕方を知りたい。
- いろんな防災を知ることができました。
- 地震が起きた時、いざという時のことも教えてくれてありがとう。
- 初めて来たけど、学校からお知らせが来たらすすんで応募したいです。

《成果と課題》

- 防災を学ぶためのきっかけとして、初歩的な技術の習得や意識付けをすることができた。
- 防災ラリーや野外炊事を体験することにより、被災時には、周囲の人と協力することが大切であることを知る機会となった。
- 法人ボランティアの自主企画事業のため、事前での職員との打ち合わせが不十分であり、事業前日に話し合う点が多くあった。また、自主企画ではあるが、マネジメント部分の職員の介入が多く、今後の課題となった。
- 野外炊事中に包丁で手を切る事故があり、職員及びボランティアの安全管理意識について、再度徹底する必要がある。